

特別支援の国語教材上級編 解答 (一部例示)

Ⅱ 「文章読解」

■51 ページ

- ① 3日
- ② 1日、8日、15日、22日、29日
- ③ ・連絡方法 10日までに、役所に申しこむ。
・出し方 25日の午前8時までに決められた場所に出す。
- ④ 21日

■52 ページ

- ① 11月1日から11月30日まで。
- ② おすすめの本の題名・作者名・感想。
- ③ 読書カードを数えて、たくさん本をしょうかいした人を選ぶ。
- ④ いちばん多く本をしょうかいした人 メダルと図書カード。
読書カードを出した人 賞状
- ⑤ まんがや雑誌、教科書。

■53 ページ

- ① 服の内側のえりやわきばらのあたりについている、ひらひらした小さな布で、衣類の取りあつかい方を説明する絵表示がかかっているもの。
- ② ①㉠ ②㉡ ③㉢ ④㉣
- ③ (例) ドライクリーニングはできない。
- ④ (略)

■54 ページ

ねこのつめ

- ① ひっこめている。(しまっている。)
- ② ・(例) 木に登るとき、木の幹にくいこませるため。
・(例) ねずみやすずめをつかまえるとき、ひっかけてつかまえるため。

象の鼻

- ・(例) 食べ物の草や木の枝をつかんで、ひきぬいたり折ったりして、口に入れる手の役目。
- ・(例) 水浴びをするときのシャワーの役目。
- ・(例) においをかぐ役目。

■55 ページ

からすの鳴き声

- ① ・急いで続けて鳴く（鳴き方）。
 ・ゆっくりのんびり鳴く（鳴き方）。
 ・大声で鳴く（鳴き方）。
 ・小さな声でやさしく鳴く（鳴き方）。
- ② ・危ないから、こっちへきなさい（という意味）。
 ・もう、おうちに帰りましょう（という意味）。

だちょうの卵

- ① （鳥の仲間で、）最も大きい鳥。
- ② ・大きさ （鳥の中で）最も大きい卵。
 ・かたさ とてもかたい。
- ③ （例）だちょうの卵はとてもかたくて、割ることができない。

■56 ページ

- ① 人 体温はいつもだいたい同じ。
 ヘビやカエル 暑いときには体温が上がり、寒いときには体温が下がる。
- ② 冬眠とは （例）冬を前にして、できるだけたくさん食べて体に栄養をつけ、その後、寒さをふせぐことができる岩のすきまや石の下やどろの中などにもぐりこみ、春になるまで静かにねむること。
 冬眠する生き物 ヘビ、カエル、コウモリ、ヤマネ、シマリスなど。
- ③ （例）冬の間、地面の穴や木のほらの中で、ねむったり、子どもを産んで育てたりすること。

■57 ページ

- ・（例）オゾン層は、紫外線を吸収して、わたしたち生き物を守るはたらきをしてくれているんだ。
- ・（例）わたしたち生物にとって、害となる太陽の光の成分だよ。
- ・（例）南極上空のオゾン層が減って、穴があいたような状態になっている部分のことだよ。

■58 ページ

- ① ・くると向きを変える。
 ・急に飛び立つ。
- ② 器用な飛び方ができるのか。
- ③ ・四
 ・筋肉
- ④ ・どの方向にも向きを変えて飛んでいく
 ・空中の一点に停止する
- ⑤ ・チョウ
 ・間接
- ⑥ 大きくて強い筋肉

■59 ページ

- ① 実りが悪くなっていく。
- ② ・水田
 ・イネ

・(実りが悪くならず、) 毎年同じように作ることができる。

③ イネを作り続けることができるのか。

④ 土や水田の栄養を流さない

⑤ 川の栄養がとけこむから。

⑥ ・栄養をためておく

・同じ水田で毎年イネを作り続けることができる。

■60 ページ

② 種

③ くき

④ 新しく増えるためのくき (ランナー)

⑤ 葉

⑥ 養分をためた小さなかたまり (むかご)

⑦ もとのイモの周りに、たくさんの小イモ

⑧ 体の一部

■61 ページ

① 1 自分の家

2 友達の家

3 公園・広場・グラウンド

4 自分の家や友達を家の周りの道路

5 学校の運動場 (校庭)

6 百八

② (例) 塾や習い事 (水泳やバレエなど) に通っている小学生が、年々増えてきたからと考えられる。

③ (例) 友達とふれ合い、人間関係や社会のルールを学ぶ役割。

④ 1 (例) 自分の家

2 (例) 公園

3 (例) 児童館

■62 ページ

① ・ごみを分別する

・地域

② ア (○)

③ ・リサイクル処理をするときにエネルギーを使うこと。

・(再生紙をつくるために費用がかかるため、) 新しい紙よりも再生紙のほうが値段が高い場合もあること。

④ (例) びんを持って行ってしょうゆや酒を買ったり、器を持参して豆腐を買いにいたり、八百屋の店先で、ざるの上に並べられた野菜を買って、そのまま買い物かごに入れたりして帰ることや、エコバッグや風呂敷を利用すること。

■63 ページ

① ・(友達といっしょにとった写真がたくさんはってある、辞書のように分厚い) アルバム (。)

- ・(友達の名前とメールアドレスがびっしりと書かれた)手帳(。)
- ② 友達が多ければ多いほうがよいのだろうか。
- ③ (おたがいにさそい合っているいろいろなところに遊びに行けるし、ゲームやアイドルの情報など、自分が知らない情報を教えてもらえる。)友達が多ければそれだけたくさん楽しいことがあるだろう。
- ④ (友達とはいつも仲がいいわけではない。時にはけんかもするし、うまくいかないこともあるだろう。友達同士のトラブルに巻き込まれることもあるかもしれない。)友達が多いということは、それだけ人間関係が複雑になるということだ。
- ⑤ うれしいことを分かち合えば喜びが倍になり、悲しいことを分かち合えば悲しみも半分になる、そんな人。

■64 ページ

- ① ・テストでよい点数を取るため。
※(略)
- ② ・「良い学校」に入って、将来「良い会社」に入るため。
※(略)
- ③ ・良い会社で働いて、たくさんお給料をもらう。
※(略)
- ④ (例) わからないこと、知らないこと、不思議なことに出会ったとき、「これって、どういうことだろう」「なぜなんだろう」と考え、それらに対して一つずつ答えを見つけていく道。

■65 ページ

- ① (北極や南極に近いところで、)日本よりもずっと寒い国。
- ② (赤道付近で、)とても暑い国。
- ③ ・幼い子どもが食べるものがなかなか手に入らない国。
・わたしたち(みなさん)より小さい子どもが学校に行くこともできずに、毎日毎日働いている国。
- ④ ぜひもっと広い世界を見る目を持ってほしいということ。
- ⑤ (例)アメリカの子どもたちが、どんな学校に通っているのかを調べてみたいです。

■66 ページ

- ① ・授業中に質問され、自信を持って答えたのにまちがっていたこと。
・サッカーの試合でパスを失敗し(、相手チームにボールを取られてしまっ)たこと。
- ② ・だれ 本田宗一郎(さん)
・どんな言葉 「チャレンジして失敗することをおそれるよりも、何もしないことをおそれろ」という言葉。
- ③ 「なぜ失敗したのか」「どうすればよかったのか」を考え、次に生かすこと。
- ④ (例)失敗した経験を生かして挑戦すれば、いつか成功する、ということ。

■67 ページ

- ・枯れ枝をひろっていた。
- ・(雑草の中からただひとつと、わずかに首をさし出している)小さい菜の花。
- ・(例)(お仲間の多い)ふもとの村へ連れて行ってもらうこと。
- ・(静かに)菜の花を根から抜いてやった。
- ・(抜いた)菜の花を手を持って、山路を村のほうへとくだって行った。

■68 ページ

- ・唐のみやこ洛陽の西の門の下。
- ・杜子春
- ・もとは金持ちのむすこでしたが、いまは財産をつかいつくして、その日の暮らしにもこまるくらい、あわれな身分になっている。
- ・老人

■69 ページ

- ・ウ (○)
- ・大きな国 老人 ・小さな国 青年
- ・(ほかに話をする相手もなく) 退屈であったから。
- ・春の日は長く、うららかに、頭の上に照り輝いているから。
- ・(一株の) 野ばら (。)

■70 ページ

- ・イ (○)
- ・(新築の二階から首をだしていたら、) 同級生のひとりが (じょうだんに、いくらいぼっても、) そこからとびおろすことはできまい。弱虫やーい。とはやしたから。
- ・このつぎはぬかさずにとんでみせませと答えた。
- ・やに色が白くって、芝居のまねをして女形になるのがすきだった。

■71 ページ

- ・(町の活動写真館で) セロをひく係り。
- ・仲間の楽手のなかでいちばん下手だったから。
- ・イ (○)
- ・(例) ゴーシュも悪いけれど、セロもずいぶん悪いというのに、ゴーシュが楽長にどなられているから。

■72 ページ

- ・職業 (村の) 牧人
- ・性格 邪悪にたいしては、人一倍に敏感な性格。
- ・家族 妹 (が一人いる。)
- ・(例) 結婚する妹のため、花嫁の衣装やら祝宴のごちそうやらを買いにやってきた。
- ・竹馬の友
- ・(もうすでに日もおちて、町のくらいのはあたりまえだが、夜のせいばかりではなく、)
(例) 町ぜんたいが、やけにさびしい (ひっそりしている) から。

■73 ページ

- ・ジョー ・メグ ・エイミー ・ベス
- ・(例) はるかに遠い戦場に行っている父親が、もう帰って来ないかもしれないから。
- ・ジョー 『オンディーヌとシントラム』の本。

- ・ベス 楽譜
- ・エイミー 箱いりの上等なフェイバーの色えんぴつ

■74 ページ

- ・いつ：三月も終わり（春）
- ・どこ：おろち峠
- ・父 ・母 ・巧 ・青波
- ・(例) 自分が雪のことを言わなければ、ここで止まってむだな時間を過ごさなくてすんだのに。

■75 ページ

- ・東京
- ・湯ノ花村の分教場
- ・イ（○）
- ・理由（例）春風のなかにまじっている眠り薬のせいで、などといえば、先生もクラスのみみんなも、大笑いするにきまっているから。
- ・気持ち（例）理由をいいたいけれど、笑われたくないから、いえないなあ。

■76 ページ

- ・小学一年生
- ・きよし、この夜
- ・救いの御子
- ・御母の胸に
- ・眠り給う
- ・いと易く
- ・(例) 少年はひとりぼっちで、さびしかったので、なんでも話せるきよしこという友だちが、今夜こそ来てくれるんじゃないかと思っていたから。

■77 ページ

- 小学生：・伊豆 ・川
 中学1年：・浜松 ・浜名湖
 中学2年：・沼津 ・台北 ・三島 ・水泳
 中学3年：・十日 ・講習会

■78 ページ

- ・絶えず吹きすさぶ風が次なる一陣を待って息をひそめる
- ・(力強い曲線を描きつつ、眼下で白波を散らす) 海へと急降下していった。
- ・㊦

■79 ページ

- ① てるてるぼうず

- ② ・あしたげんきにあそべるようにという願い。
・あしたはてんきになるようにという願い。
- ③ ふるふるぼうず
- ④ ・あしたげんきにあそべるようにという願い。
・あしたもざんざかふるようにという願い。
- ⑤ あしたげんきにあそべるようにという願い。
・(例) いくちゃんとあまがえるさんでは、願う天気が反対で、おもしろいと思った。

■80 ページ

- ① ア (○)
- ② ア (○)
- ③ イ (○)
- ・(例) これから、どんな所へ飛んでいくのか、どんなものと出会えるのか、とても楽しみだと思っている。そして、いつか、どこかで、きれいな花をさかせたいとも思っている。

Ⅲ 「作文」

■93 ページ

翼のない天使たち

- ・ 智久
- ・ 「星の家」
- ・ なみだ
- ・ 勇気
- ・ やさしさ

赤毛のアン

- ・ マシュー
- ・ マリラ
- ・ 空想
- ・ 赤毛
- ・ アン
- ・ 成長

モモ

- ・ 解消
- ・ モモ
- ・ (人の) 時間
- ・ 意味

■94 ページ

二十一世紀に生きる君たちへ

- ・ (例) 国民的作家の筆者が子どもたちに残したメッセージ。相手にやさしい自己を確立することや「いたわり」などを教えてくれる。

天気のみみつ

- ・ (例) 楽しいまんがと資料で、雨や風、気温や気圧から、日本の天気、にじやしんきろうまで天気のみみつをわかりやすく解説してくれる。

アフリカポレポレ

- ・ (例) 動物写真家の夫に同行し、アフリカでくらすことになった筆者と四歳の薫ちゃんが、自然の厳しさや美しさなどを学んでいく。

■95 ページ

- ・ 敵
- ・ にげる
- ・ 音
- ・ 体
- ・ 体温

■96 ページ

- ① ・オーストラリア大陸
・三百四十八
・八千メートル
・「地球のへそ」
- ② (例) 強い風で、やわらかい地面がけずり取られ、かたい岩だけが残ってできた。
- ③ ・高
・三千八百メートル
・十二倍
・五番目
- ④ (例) アンデスの高い山々から、いくつもの川や、春になってとけたたくさんの雪が流れこむから。

■97 ページ

(略)

- ・(例) 熱はかぜをひいたことを知らせる役目と、体の中のかぜのウイルスをやっつけるはたらきをしている。

■98 ページ

(略)

- ・(例) 海辺で、遠くからやってくる船を見ていると、船の上の部分からだんだんと見えてきて、やがて全体が見えてくる。これは地球が丸いからで、もし地球が平らなら、遠くからくる船は、最初から全体が見えるはずだ。

■99 ページ

どうして学校へ行くの。

- ・(例) 先生がいろいろ教えてくれるし、友達とも遊べる場所

どうして毎日、歯をみがくの。

- ・(例) 毎日歯をみがかないと、虫歯になりそう

どうしてお花に水をやるの。

- ・(例) 水をやらないと、お花がかれてしまって、かわいそう

どうしてお金はさいふに入れるの。

- ・(例) まとめておかないと、なくしてしまいそう

■100 ページ

わかった人は、手を挙げてから発言してください。

- ・(例) たくさんの人がかかってに発言を始めると、話が聞き取れない

遊びに行くときは、だれとどこへ行くのか、何時に帰ってくるのかを言って行くのよ。

- ・(例) だれとどこへ行ったのか、何時に帰るのがわからなければ、家の人心配する

ご注文のお客様は、一列にお並びください。

- ・(例) 一列に並んでいないと、お客様の来た順番がわからなくなってしまう

病院の待合室ではお静かに。

- ・(例) 名前や番号が呼ばれても、話し声でみんなに伝わらない

■101 ページ

教室で

- ・(例) 百点が取れたことをじまんし、「きみは頭が悪いね」と言っているように聞こえるから。

友達の家で

- ・(例) 部屋が「散らかっていて、きたない」というのは、その人がだらしない性格だと、いっているのと同じだから。

先生に

- ・(例) 人には、自分の生活の、細かいことは、ほかの人に知られたくないという気持ちがあるから。

■102 ページ

- ① (例) 読む人が読みまちがえたり、読みづらくて読むのをやめてしまったりするかもしれないから。
- ② (例) 本を読んだり、勉強したり、本をさがしたりしている人にとって、めいわくなるから。
- ③ (例) 病気になったり、元気がなくなったり、太りすぎたりして、困るから。
- ④ (例) 楽しい気持ちになれるし、ほかの人の気持ちやまわりのふんい気も明るくすることができるから。

■103 ページ

駅や道路の点字ブロックの上に、物を置いてはいけません。

- ・(例) 点字ブロックは、目の不自由な人が、つえや足でさぐって道を歩くのを助けるためにあるものなので、物を置いたら目の不自由な人がそこから先に進めなくなったり、転んでけがをしたりするかもしれないから。

友達が失敗したとき、それを笑うのは、良くないことです。

- ・(例) 失敗した人は、わざとしたわけではないので、残念に思っているだろうし、できればほかの人には知られたくないはずなので、それを笑った人は、失敗した人の心を傷つけるかもしれないから。

■104 ページ

- ① (例) おもちゃの楽器に小さいころから親しんでいたのが習いやすく、始めると、とても楽しいから。
- ② (例) 英語が話せると、とてもかっこいいし、外国へ行ったときに、会話で困らないから。
- ③ (例) きれいな字を書くことは、学校の勉強や働くようになってからでも役立つし、きれいな字が書ければ、自信になるから。

■105 ページ

- ① (例) コンビニ：駅の近くや通行の多いところ。
デパート：駅の近くや町の中心。
- ② (例) コンビニ：いつでも営業している。
デパート：午前10時くらいから午後8時くらいまで。
- ③ (例) コンビニ：おべんとうやおかしを買うとき。
デパート：服やかばんを買うとき。

似ているところ

- ・(例) 人が多く集まる場所にある。

ちがうところ

- ・(例) 営業時間や売っている品物の種類。

■106 ページ

学校と塾

似ているところ

- ・(例) 先生がいて、勉強を教えてくれるところ。

ちがうところ

- ・(例) 学校はみんなが行くけれど、塾は行く人と行かない人がいるところ。

電車とバス

似ているところ

- ・多くの人を乗せて、はなれたところまで運んでくれるところ。

ちがうところ

(電車の便利なところは、)・すごく遠くまで、早く運んでくれるところ。

(バスの便利なところは、)・家の近くから乗れるところ。

■107 ページ

① 体育

② ・音楽

・家庭

③ ・理科

・算数

- ④ (例) 体育は、男子も女子もいちばん人気があるところが似ているが、理科と算数は男子、音楽と家庭は女子に人気があるところがちがう。

(略)

V 「語句・言葉のきまり」

■161 ページ

- ① 口が軽い ・(言っではいけないことまで) すぐしゃべる。
- ② 口が重い ・なかなかものを言いたがらない。
- ③ 口がかたい・秘密など、言っではいけないことは、けっして人にしゃべらない。

口が(かたい)人。

- ① 口を出す ・自分に関係のないことなのに、わざわざ入って、あれこれ言う。
- ② 口をそろえる ・多くの人がいっしょに同じことを言う。
- ③ 口を割る ・かくしていたことなどを言う。
- ④ 口を合わせる ・二人以上の人が言うことを同じにする。

口を(出す)人。

短文

- ・(例) 話さないと約束をしたのに言うなんて、口が軽い人だ。

■162 ページ

- ① 目を丸くする ・びっくりして、目を大きく開く。
- ② 目をかける ・特別にかわいがる。
- ③ 目を皿のようにする ・目を大きく開いて、ものをよく見る。
- ④ 目に余る ・だまって見ていられないほどひどい。
- ① 耳にたこができる ・同じことをくり返し何度も聞かされて、いやになる。
- ② 耳が痛い ・自分の悪いところや弱みを言われ、聞くのがつらい。
- ③ 耳が早い ・物音やうわさなどを、すぐに聞きつける。
- ④ 耳をかたむける ・一生けん命に聞く。
- ⑤ 耳を疑う ・思いがけない話を聞いて信じられず、聞きまちがいかと思う。

短文

(目)・(例) 弟の信じられない行動に目を丸くする。

(耳)・(例) 下級生の意見に耳をかたむける。

■163 ページ

- ① あの人は、とても頭がよい人です。
- ② 来週の遠足を今か今かと待ちこがれて待っています。
- ③ 一日中歩き回って、足がつかれました。
- ④ 勉強ができることを自まんするのは、よくありません。
- ⑤ みんなの無事がわかって、安心しました。
- ⑥ 今日はとことん、かくしだてをせずに話し合しましょう。
- ⑦ あの子のいたずらには、みんなが困っています。
- ⑧ 田中君の英語のあまりのうまさに、とても感心しました。

短文

- ・(例) 父の帰りを首を長くして待つ。

■164 ページ

- ① 自分がすぐれているのを、自まんしたり、得意がったりする。
- ② むだ話などをして、仕事や用事をなまける。
- ③ 本当の性質をかくして、おとなしそうに見せかける。
- ④ 文章を書くことが上手である。
- ⑤ 練習して、もっと力をつける。
- ⑥ 気が合う。気持ちがぴったりと合う。
- ⑦ 顔つきや姿が、非常に似ていること。
- ⑧ 非常に仲が悪い間がら。

短文

- ・(例) 姉は料理の腕をみがいている。

■165 ページ

- ① まちがいのないように、前もって強く言いわたしておく。
- ② いいかげんなことを言うなどして、その場をごまかす。
- ③ もとの何もなかった状態にもどす。
- ④ 非常にすぐれているが、ほんの少し欠点がある。
- ⑤ 大変いそがしくて、だれでもよいから手伝ってほしいことのたとえ。
- ⑥ 苦心して、一生けん命にする。
- ⑦ (せっかくの努力などを) むだにする。
- ⑧ 力がおよばない。相手が強くてかなわない。

短文

- ・(例) 工場建設の計画を白紙にもどす。

■166 ページ

- ① 出歩いていれば、思いがけない幸運に出会う。出しゃばると、思いがけないわざわざを受ける。
- ② いくら注意されても、少しも聞き入れようとしない様子。
- ③ どんなに冷たい人でも、ときには情けを感じて、やさしさを見せることがある。
- ④ 人がある所を立ち去るとき、見苦しくないように、きれいに始末していくこと。

① 立つ鳥あとをにごさず

② 馬の耳に念仏

短文

- ・(例) あのこわい人が許してくれるとは、鬼の目にも涙だ。

■167 ページ

- ① どんな名人でも、失敗することがあるというたとえ。
- ② まだ手にしていないうちから、あれこれ当てにして計画を立てること。
- ③ 二つのことを一度にしようすると、どちらも成功しないというたとえ。
- ④ どんなに値打ちのあるものでも、わからない者には役に立たないことのたとえ。
- ⑤ 本当にすぐれた才能のある人は、むやみにそれをひけらかさないということのたとえ。

① 二兎を追う者は一兎をも得ず

② とらぬたぬきの皮算用

短文

- ・(例) 友達が音楽コンクールで優勝したことを知り、能あるたかはずめをかくすだなどと思った。

■168 ページ

- ① 知らないことを人に聞いてははずかしくても、それは一時で、聞かなければ、いつまでもわからないままで一生はずかしい思いをする。
- ② ふだん準備してあれば、万一の事態が起きてても、心配しないですむものである。
- ③ 好きなことには熱心になれるので、自然と上達するものだ。
- ④ ごくわずかなものでも、積もり重なれば大きなものとなる。
- ⑤ 何回失敗してもくじけず、立ち直ってがんばること。

① 備えあればうれいなし

② ちりも積もれば山となる

短文

- ・(例) 聞くは一時のはじ聞かぬは一生のはじだから、思い切って下級生に聞いてみた。

■169 ページ

- ① 親が一生けん命に子供のことを心配しているのも知らないで、子供はかってことをするものだ。
 - ② 秘密はもれやすいということのたとえ。
 - ③ 楽しいことがあれば、苦勞することもある。
 - ④ 一度目や二度目は思うようにならなくても、三度目にはうまくいくものだという教え。
 - ⑤ 物事を始めたときの、まじめで真けんな気持ちを忘れてはいけない。
- ① 何回も人の話を聞くよりも、たった一度でも、実際に見るほうが、ずっとよくわかる。
 - ② 見て美しいものより、実際に役立つもののほうがよいというたとえ。
 - ③ 二度あったことは、必ずもう一度くり返されるものである。

■170 ページ

- ① どんなに大きな事業でも、まずはごく手近なところから始めなければならないということ。
 - ② 気が短くておこりっぽいと、結局は失敗して、自分が損をするということ。
 - ③ 時間はお金のように大切なものだから、けっしてむだに使ってはいけないということ。
 - ④ 人への親切は、めぐりめぐって結局は自分に返ってくる。
 - ⑤ いつもほがらかで楽しく生活している人の家には、幸せがやってくる。
- ① あわててもものごとをすると、かえって失敗しやすいというたとえ。
 - ② よいことは、思いついたらためらわずにすぐ行え。
 - ③ 急いで危ない方法をとるより、時間がかかっても安全な方法をとったほうが、かえって早くものごとをなしとげることができるというたとえ。

■171 ページ

- ① あります
- ② 本です
- ③ します

- ④ ありがとうございます
- ⑤ 高校生です
- ① 昨日は、よいお天気でした。
- ② 母は、近所まで出かけました。
- ③ このパン、食べますか。

■172 ページ

- ① めし上がる
- ② いらっしゃる
- ③ ごらんになる
- ④ なさる
- ・ア
- ・エ
- ・尊敬語 めし上がった

■173 ページ

- ① お答えする
- ② ご案内する
- ③ お待ちする
- ④ ご説明する
- ① 申し上げる (○)
- ② うかがう (○)
- ③ いたします (○)
- ④ いただく (○)
- ⑤ 参ります (○)
- ・ わたしは、お客様のかばんをお持ち (いた) しました。

■174 ページ

- ① お ㊦
- ② ご ㊦
- ③ お ㊦
- ④ お ㊦
- ⑤ お ㊦
- ① ご
- ② お
- ③ お
- ④ ご
- ⑤ ご
- ⑥ お
- ⑦ ご
- ⑧ お

■175 ページ

- ① イ (○)
 - ② ア (○)
 - ③ ア (○)
 - ④ イ (○)
 - ⑤ ア (○)
- ① うさぎが、えさを食べている。
 - ② 母が、お礼を申しておりました。
 - ③ 公園で友達に会いました。
 - ④ 先生は、来週、ぼくの家に来られます (おいでになります/来られます)。

■176 ページ

- ① (例) はい、元気です。
- ② (例) もうすぐだそうです。
- ③ (例) どうぞ、おかけください。
- ④ (例) こちらこそありがとうございます。
- ⑤ (例) いただきます。

■177 ページ

身の回りにある「名詞」 くつ・ハンカチ・つくえ・ボール・自転車・テレビ・ピアノ・デパート

- ① (例) 春
- ② (例) おすし
- ③ (例) ライオン
- ④ (例) 本

身の回りにある「固有名詞」 アンデルセン・宮沢賢治・オーストラリア・北海道・京都・東京スカイツリー

- ① (例) 山川花子
- ② (例) アメリカ
- ③ (例) 嵐

■178 ページ

身の回りにある「形容詞」

低い・白い・熱い・安い・うすい・重い・美しい

【寒い】

- ② 寒かつ
- ③ 寒く
- ④ 寒い
- ⑤ 寒い
- ⑥ 寒けれ

【うれしい】

- ① うれしかる
- ③ うれしく

- ④ うれしい
- ⑤ うれしい
- ⑥ うれしけれ

■179 ページ

身の回りにある【動詞】

言う・書く・立つ・ねる・止まる・行く・乗る・投げる

【読む】

- ① 読ま
 - ② 読み
 - ③ 読む
 - ④ 読む
 - ⑤ 読め
 - ⑥ 読め
- ① ら
 - ・(例) ろうかでは、走らない。
 - ② り
 - ・(例) 一生けん命走ります。
 - ③ ・(例) 犬が走る。
 - ④ る
 - ・(例) 走るときは、うでを大きくふる。
 - ⑤ れ
 - ・(例) 走れば、間に合うだろう。
 - ⑥ れ
 - ・(例) 気合いを入れて走れ。

■180 ページ

- ① ア
 - ② エ
 - ③ イ
 - ④ ウ
 - ⑤ イ
 - ⑥ エ
 - ⑦ ア
 - ⑧ ウ
- ① (例) 今日は、雨がふった。
 - ② (例) 今日の夕食は何ですか。
 - ③ (例) 道にごみを捨ててはいけません。
 - ④ (例) やれやれ、やっと部屋が片づいた。

■181 ページ

そ

- ・その
- ・そこ
- ・そちら
- ・そっち
- ・そう

あ

- ・あの
- ・あそこ
- ・あちら
- ・あっち
- ・あんな

ど

- ・どの
- ・どこ
- ・どちら
- ・どっち
- ・どんな

- ① この (例) このパンはおいしい。
- ② それ (例) それは、ボールペンですか。
- ③ あちら (例) あちらのベンチで休みましょう。
- ④ どう (例) どうすれば、上手に歌えますか。

■182 ページ

- ・(例) だから
- ・(例) しかし
- ・(例) また
- ・(例) そして
- ・(例) なぜなら
- ・(例) ところで
- ・(例) それとも

- ① (例) 朝は、雨が降っていた。けれども、夜は雨がやんで、星がきれいだった。
- ② (例) 今日は、朝から頭が痛い。さらに、だんだん熱も出てきた。
- ③ (例) お茶にしますか。それとも、ジュースにしますか。

■183 ページ

① こ→く→ご

①その国民がつかうその国のことば。②日本語。③学校の学科の一つ。日本語について、読む・書く・聞く・話す力をつけることをまなぶ学科。国語科。

② せ→つ→じ→つ

①身にしみて強く感じるようす。②その人にふかいかかわりがあるていじであるようす。

③ じ→り→つ

人にたよらないで、自分の力でものごとをやってゆくこと。

■184 ページ

① ①かわいがり、大切に思う心。②（男女がたがいに）こいしく思う心。

② ものごとに強く心を動かされること。

③ （目的をはたすため）力や心を合わせること。

④ あるものごとの様子を知らせること。また、その知らせ。

⑤ 真心がこもっていること。まじめ。

以下（例）

調べる言葉 ・勉強

読み方 ・べんきょう

意味 ・①知識をえるために、先生に教えを受けたり、本で習ったりすること。

②商人が品物を安く売ること。

調べる言葉 ・研究

読み方 ・けんきゅう

意味 ・ものごとを深く考えたり、調べたりして、明らかにすること。また、その内容。